

## 傾聴ボランティア通信



例年以上に厳しい冬の日々、会員の皆様お元気でお過ごしでしょうか。

“春よ来い”と心から思います。

新型コロナウイルスとの闘いは3年目を迎えました。オミクロン株による第6波はピークを迎えたと言われていますが、長野県のまん延防止等重点措置は3月6日まで延長になっています。

傾聴活動ができる本当の春が来る日を待ち望みます。



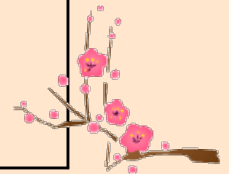
## アンケートご協力御礼

昨年12月にお願いした傾聴活動のアンケートの回答ありがとうございました。回収率96%でした。自由記述欄にも多くのご意見感想を頂きました。3ページにわたって結果をまとめましたのでご覧下さい。

## 2022年度総会のご案内

2020年度、2021年度と連続して総会を開催できませんでした。2022年度はコロナの感染状況が見通せませんが、なんとか開催したく、以下のように計画しました。

- 期日 2022年5月20日(金) ※ 感染状況により延期
- 会場 松本市 駅前会館会館
- 参加 各グループ代表 1名~2名
- 開催の可否決定は、4月20日に役員会で検討後、各グループ宛文書で連絡します。
  - ・ 開催の場合は日程・内容等の詳細をお知らせします。
  - ・ 延期の場合は、次の開催日についても同時にお知らせします。



## 2022年度初めにあたってのお願い

## 1. 新年度会員状況報告

この会報に同封した「新年度会員状況報告」に記入して4月末日までに提出して下さい。提出先については「新年度会員状況報告」に記しています。

## 2. 年会費納入

例年通り、総会時に直接納入して下さい。

## 3. 役員改選について

2020年度、2021年度とも現役員体制で行ってきました。2022年度は役員改選の年になります。2022年度の総会開催まで現役員が継続し、総会時に改選します。

## 4. 北信ブロック代表について

2021年度に、傾聴飯山の菅原さんから千曲会の猿渡幸子に引き継がれています。会員の皆様にお知らせする機会を失してしまいました。申し訳ありませんでした。

長野県傾聴ボランティア連絡協議会  
代表 長谷川 昭 TEL FAX 0264-48-2133  
携帯 09043981187  
mail mr.kaeru77@ot.kiso.ne.jp  
☎ 397-0201 木曾郡王滝村 4100-13



広報担当 弓削淑子  
TEL FAX 0266-74-1122  
mail yugetora@po30.lcv.ne.jp  
☎ 391-0115 諏訪郡原村原山17217-2199

## 2021年度傾聴活動に関するアンケート結果(2021年12月時点アンケート実施)

### 自由記述欄 (記述して頂いた内容は主旨を変えずに要約しました。複数のグループからの同じ内容の記述はまとめています。)

<p>連絡協議会への要望・意見など</p>	<p>活動を継続していくための会員増が課題になる中、県連による「傾聴基礎講座」はその為の、とても大きな力となっている。今後も県協議会全体の会員増に向けた活動に大きな期待をします。</p> <p>「傾聴活動」という目標を持ちながら進んでいたが、個人個人のやりがい途切れてしまっている。グループではそんな状態を何とか維持・継続しようと工夫しながら頑張っていますが限界もあります。難しさはあると思いますが、県協議会としてグループの交流や代表者(少人数)話し合いなど、ほつほつ開催してはどうでしょうか。</p> <p>昨年今年とも一部の施設が傾聴活動が出来ず、小さな会ですから独自の勉強会もできる事が限られるので、モチベーションを維持しにくくなっています。 県や上伊那レベルの交流会・学習会などの場が持てると良いと思います。</p> <p>コロナ禍での傾聴活動のマニュアルが出来ることを希望する。また事例(事例)などあれば参考になる。</p> <p>長和町の基礎講座は本当にありがたかったです。新人さんが入会してくださったことで、自分たちで学習会をしていましたが、やはりきちんと講座を受けてきたという気持ちは大切で、メンバー全員のモチベーションも上がりました。ありがとうございました。</p> <p>傾聴ボランティア基礎講座がコロナ禍の中で、できて良かったです。皆さんのスキルアップと復習の勉強会になりました。初めての方もこれからの傾聴活動に役立つと思います。これからも傾聴ボランティア基礎講座がいろんなところで開催出来たらよいと思います。</p> <p>傾聴ボランティア基礎講座を、多くの方に参加してもらえる機会を捉えて実施したい。</p>
<p>グループの状況・課題など</p>	<p>コロナ感染の状況を見ながら、会の外への活動は控えている。その中で自主的に傾聴のスキルを上げるため、学習や話し合いをしている。多少感染が落ち着いたとき、傾聴に対する講師依頼があり、資料作り・話し合いなどを持ちながら、充実した時間が持てたことはありがたかった。</p> <p>コロナを機に会員の減少と仲間の高齢化で、会や活動を退く方が出てきているので、仲間づくりが大変になって来た。また、60代70代前半の方達はまだ仕事をされている方が多い。全体のボランティア人口も減っている中で、新会員を増やすことがいつも会の中で問題(悩み)となっている。併せて、次の役員へのなり手が少なく課題の1つです。</p> <p>最近では施設内の装飾作りなどに手を貸して欲しいとの依頼により、会員が協力し喜ばれている。傾聴が出来るまでのつなぎとして前向きに参加しています。</p> <p>私達グループも男性の会員が、1~2名でも加わってくれるのを期待している。</p> <p>コロナ禍の現状では要請があつたとしても、不安を感じながらの訪問となり充実した傾聴が出来るか心配です。晴れやかな気持ちで訪問したい。お年寄りには少しのことで体調を崩しやすく、訪問していてもキャンセルになることが多い。またマスク越しの傾聴は表情が見えず不都合も多い。</p> <p>傾聴に限らず地域ではボランティアの確保が課題です。ボランティアの中心は70歳代、また福祉の担い手も施設によっては60歳代が中心と聞いています。私たちの会も自分たちが無理せず長く活動することが大事だと話しています。</p> <p>長野県内のグループの活動状態が分らず不安でしたが、「月刊誌 傾聴ボランティア」の購読により参考となり助かりました。</p> <p>傾聴ボランティアという形式(形)やスキルにこだわらず、傾聴を(深く)理解したうえで、もっと自由に高齢者と傾聴的にかかわる‘お話し相手ボランティア’活動を目指していきたい。より自然体で「たかがボランティア、されどボランティア」の精神で取り組んでいきたい。</p> <p>報道で共感という言葉が多く出ています。活動ができるまで、学びを忘れないようにしたいものです。</p> <p>社協を通しての依頼には、同席をして面接した後行っている</p>